

少子時代の幼児の生活と遊び

後藤 ヨシ子* 立花 由紀子* 藤川 知香*

(平成10年10月30日受理)

Daily Life and Play in Early Childhood at the Age of Low Birth Rate

Yoshiko GOTO, Yukiko TACHIBANA, Chika FUJIKAWA

(Received, October 30, 1998)

はじめに

今日子どもや家庭を取り巻く環境の変化は、核家族の進行や出生率の低下に伴い、人間関係の視点からは「縮小化」と「希薄化」が言われる。その影響は子ども達に「多様な価値観の存在を学ぶ、我慢すること、社会性を培う、人の心の痛みを感じる、ひいては創造性や活力を育むこと等」、これらは様々な人間関係の中で学びとっていくものであることから、その機会を減少させることへの懸念がもたれる¹⁾。少子化はゆとりある世話や教育が期待できるというプラスの評価が考えられる一面、子どもの心身の健やかな発育発達及び自然や人との共生にとって、子ども時代の体験が長い人生に及ぼす意義を考える時、現状の環境や子どもの体験を分析し、人間発達の視点から問題点の検討が望まれる。今回は幼児期の生活と遊びの現状と理想、親子のふれあいと満足度を中心に考察を試みた。

研究方法

対象は長崎市内の4幼稚園に通う3～5歳児287名(男児147名, 女児140名)をもつ母親に、子どもの生活リズムや遊びの現状と理想、親子の触れ合いと満足度を内容とする質問紙法による調査を実施した。対象児の兄弟姉妹数の平均は2.3人である。その内訳は2人兄弟姉妹が最も多く54.4%と半数を占め、次いで3人以上の兄弟姉妹が34.1%, ひとりっ子は11.5%と1割を占めている。母親の就労状況は常勤・パート・自営業を含めて16.4%と2割弱である。他方専業主婦が81.2%と8割を占めている。祖父母との同居率は母親が就労している家庭の方が高く39.6%, また同居はしていなくても「昼間世話をお願いをしている」が20.8%見られた。母親の就労には祖父母の手助けや協力が大きく母親の就労を可能にしていることが伺える。

実施期間は1996年10月～11月である。

*長崎大学教育学部家政教育講座

研究結果

A. 幼児の生活リズム—現状と理想—

1) 平日と休日の起床時刻

全員が幼稚園児である平日の子どもの一日の始まりは、起床時刻では午前6時台が10.8%、そして午前7時台が最も多く76.7%で、この7時台までに87.5%が起床している。これは子どもの通園生活にみあうためと考えられるが、他方8時台や9時台に起床し、登園までに時間的余裕の少ない子どもも1割はいる。

他方休日では7時台までの起床は32.1%と平日の半数にも満たなく、午前8時台が最も多く58.1%、さらに9時台に起床する子ども8.4%を含めると、66.5%が平日よりも1時間遅起きになっている(表1)。

表1 起床時刻 (%)

	平日の起床時刻	休日の起床時刻
6時台	31 (10.8)	14 (4.9)
7時台	220 (76.7)	78 (27.2)
8時台	31 (10.8)	167 (58.1)
9時台	1 (0.3)	24 (8.4)
無回答	4 (1.4)	4 (1.4)
	287 (100.0)	287 (100.0)

2) 平日と休日の就寝時刻

平日の就寝時刻では、午後9時台が最も多く63.1%、8時台も含め9時台までに就寝する子どもはほぼ8割を占める。しかし午後10時以降に就寝する遅寝の子どもも16.4%いる。

他方休日の就寝時刻は、平日にくらべ午後10時台以降の子どもが23%とほぼ4人に1人と増加する。起床・就寝時刻ともに平日よりも休日は一時間ほど「遅寝遅起」の生活時間となる子どもが増えていることが伺える(表2)。

表2 就寝時刻 (%)

	平日の就寝時刻	休日の就寝時刻
20時台以前	4 (1.4)	3 (1.0)
20時台	41 (14.3)	29 (10.1)
21時台	181 (63.1)	163 (56.8)
22時台以降	47 (16.4)	66 (23.0)
無回答	14 (4.8)	26 (9.1)
	287 (100.0)	287 (100.0)

3) 幼児の一日の睡眠時間

一日の睡眠時間は「10時間」が53.0%と過半数を占めている。そして睡眠時間と起床時刻並びに就寝時刻との関係を見ると、幼稚園児は午後9時台に就寝し、7時台に起床するという10時間睡眠が最も多く、幼稚園児の標準の生活時間を示しているともいえる

(表3)。他方起床のより遅い8時台および9時台の幼児は、就寝では午後10時台以降、または睡眠時間の少なめである「8時間睡眠」や「9時間睡眠」である傾向があり、幼児の1割余りに見られる。

表3 一日の睡眠時間 (％)

	平日の睡眠時間	理想の睡眠時間
8～9時間	15 (5.3)	4 (1.4)
9～10時間	73 (25.4)	44 (15.3)
10～11時間	152 (53.0)	179 (62.4)
11～12時間	33 (11.5)	48 (16.7)
12時間以上	7 (2.4)	12 (4.2)
無回答	7 (2.4)	0
	287 (100.0)	287 (100.0)

4) 生活リズムの理想

現状の子どもの起床・睡眠の生活時間に対して、「今のままでよい」と答えた母親が、起床時刻に対しては、58.6%を占め、就寝時刻に対しては47.7%であった。他方「もっと早い方がよい」と答えた母親は起床時刻に対しては37.6%、就寝時刻の方は46.7%と半数近い。それに対し「もっと遅い方がよい」と答えた母親は殆んどいなかった。現状の生活時間に対し、もっと早寝早起きを望む母親の多いことが伺える(表4)。

表4 起床・就寝時刻についてどう思うか (％)

	起床時刻	就寝時刻
今のままでよい	168 (58.6)	137 (47.7)
もっと早い方がよい	108 (37.6)	134 (46.7)
もっと遅い方がよい	0	1 (0.3)
無回答	11 (3.8)	15 (5.3)
	287 (100.0)	287 (100.0)

母親の考える幼児期の子どもの理想とする睡眠時間は、「10時間」が最も多く62.4%である。さらに「10時間以上」を理想と考える母親を含めると83.3%にのぼる。現状では10時間以上の睡眠をとっている幼児は66.9%であることから、もっと睡眠時間を多く望んでいる母親が多いことが伺える(表3)。そのためには起床時刻は「今のままでよい」という母親の割合に比べ、「もっと就寝時刻の早さ」を望んでいる母親が半数もいることから、まずは就寝時刻を現状よりも少しでも早めることが理想の睡眠時間に近づく最も必要な条件となっているといえる。他方8時間あるいは9時間を理想と考える母親も16.7%見られた。

B. 子どもの家庭での一日の主な過ごし方—遊び・テレビ視聴・絵本を見るを中心に—

平日と休日の主な過ごし方について、図1に示している。平日の午前中は幼稚園にて過

ごしているため、午後からの過ごし方を見ると、室内・外を含めた遊びの平均時間はテレビ視聴時間の3倍、しかし外遊びよりも室内遊びで過ごす時間の方が長い傾向にある。テレビの視聴は午後・夕食後を含めると平均視聴時間は104.9分である。



図1 1日の過ごし方 (平均時間)

休日では午前中は遊びでは、室内の方が長く、午後は外遊びの時間が長い。一日の遊び時間は総時間では364.5分 (ほぼ6時間)、遊び場別では夕食後の室内遊びを除き昼間の時間のみで見た場合、外遊びでは162分、室内遊びは163.8分とほぼ同じである。テレビの視聴時間はどの時間帯にも視聴しており一日の平均総視聴時間は172.9分、夕食後は遊びよりもテレビ視聴の時間の方が長い。

他方絵本・童話を見る (読みきかせる) は午前、午後、夕食後のどの時間帯においても20分以内と短い。幼児の一日の過ごし方は「遊び」と「テレビ」が生活時間の主要を占め、室内遊びとテレビ視聴時間を加えると幼児が室内で昼間過ごす時間がかかなりの時間を占めていることがわかる。

C. 遊びの現状と満足度

1) 遊びの場所は

「室内と外遊びも同じ位」また「室内遊び」が、「外遊び」よりも多く、子どもの遊びが室内遊びに傾いて来ていることがわかる。殊に1983年に実施した15年前は外遊びは7割を占めていたことから見ると激減していることがわかる²⁾。男女児別では男児よりも

女兒の方がやや室内遊びが多いが有意な差異はなかった（表5）。

表5 遊びの場所 (%)

	外遊び	同じくらい	室内遊び
男児	35 (23.8)	59 (40.1)	53 (36.1)
女児	33 (23.6)	50 (35.7)	57 (40.7)
全体	67 (23.4)	110 (38.3)	110 (38.3)

2) 遊び相手は（複数回答）

平日では全体的には「兄弟姉妹」が52.3%と最も多く、次いで「友達」と「母親」が同率の42.5%を占める。そして「祖父母」は9.8%、「ひとり遊び」は少なく6.6%である。他方「父親」は平日では何ら子どもの遊び相手はしていないことが示されている。

休日では「兄弟姉妹」が平日よりも割合は高くなる（74.2%）が、「父親」が43.6%と子どもの遊び相手をしている。その分「母親」との遊びや「友達」と遊ぶことが減少する。休日は、兄弟姉妹そして父親や母親など主として家族と過ごし、父親にとっても子どもと触れ合う大事な時間となっている（表6）。

表6 誰と遊んでいますか（遊び相手） (複数回答) (%)

	ひとり遊び	兄弟姉妹	友 達	父 親	母 親	祖 父 母	
平 日	男児	7 (4.8)	78 (53.1)	64 (43.5)	0	62 (42.2)	11 (7.5)
	女児	12 (8.6)	72 (51.4)	58 (41.4)	1 (0.7)	60 (42.9)	17 (12.1)
	全体	19 (6.6)	150 (52.3)	122 (42.5)	1 (0.3)	122 (42.5)	28 (9.8)
休 日	男児	5 (3.4)	113 (76.9)	24 (16.3)	59 (40.1)	35 (23.8)	9 (6.1)
	女児	10 (7.1)	100 (68.0)	16 (11.4)	66 (47.1)	46 (32.9)	9 (6.4)
	全体	15 (5.2)	213 (74.2)	40 (13.9)	125 (43.6)	81 (28.2)	18 (6.3)

遊び友達においても15年前²⁾とは大きく変化し「近所の子ども達」との遊びから、「兄弟姉妹」や「親」との遊びに比重が移っている。

男女児別では、男児の方が同年代の子ども同士の遊びをする傾向が強い。

遊び場所別にみると、「外遊びが多い」子どもは平日、休日ともに「友達」が遊び相手としての割合は高く、他方「室内遊びが多い」子どもは「母親」や「ひとり遊び」の傾向が高く、「友達」と遊ぶことは極めて少なくなっている。

次に兄弟姉妹の有無別でみると、兄弟姉妹がいる場合は、遊び相手は「友達」よりも「兄弟姉妹」で遊ぶことが高いが、ひとりっ子の場合は、誰が代わりに遊び相手になっているか、平日は「母親」や「祖父母」といった大人相手遊ぶ事が多く、休日は祖父母に代わって「父親」が、そして「母親」が兄弟姉妹のいない面を補っている（表7）。

3) 仲良しの友達は何人いますか

年齢別にみると、3歳児は少数例であるが「2～3人」が一番多く58.8%、4歳児では「4～5人」が一番多く51.1%、5歳児も「4～5人」が42.2%と一番多いが、「6人

以上」の友達の割合も23.0%と年齢に伴い仲良し友達の数が増加している傾向が見られた(表8)。

表7 誰と遊んでいますか(兄弟姉妹の有無別) (複数回答) (%)

		ひとり遊び	兄弟姉妹	友 達	父 親	母 親	祖 父 母
平 日	ひとりっ子	4 (12.1)	0	12 (36.4)	0	17 (51.5)	7 (21.2)
	兄弟姉妹あり	15 (5.9)	149 (58.7)	107 (42.1)	1 (0.4)	104 (40.9)	21 (8.3)
休 日	ひとりっ子	5 (15.2)	0	6 (18.2)	19 (57.6)	16 (48.5)	3 (9.1)
	兄弟姉妹あり	9 (3.5)	211 (83.1)	33 (13.0)	104 (40.9)	62 (14.3)	14 (5.5)

表8 仲良しの友達は何人いますか (%)

	いない	2～3人	4～5人	6人以上
3歳	0	10 (58.8)	6 (35.3)	1 (5.9)
4歳	3 (2.2)	49 (36.2)	69 (51.1)	14 (10.4)
5歳	1 (0.7)	46 (34.1)	57 (42.2)	31 (23.0)
全体	4 (1.4)	105 (36.6)	132 (46.0)	46 (16.0)

4) 遊び内容

「よくしている・時々する」の遊び内容を表9に示している。男女児ともに17項目のうち上位3位までは室内遊びが占める。そして遊び内容には男女児に差異が見られている。殊に男児では外遊びである「乗り物」「ボール遊び」の割合は高く、他方女児では「お絵書き」「ままごと」に高く性差がみられている。また「テレビゲーム」や「虫取り」は男児の方が好んで遊んでいる割合は高いが、全体的に「木登り」や「川遊び」は幼児の遊び内容としては、とても少ないことがわかる。

幼児・児童期の遊びに関して1993(平成5年)に実施した調査においても³⁾、「めだかや子魚をとる」、「虫取りをする」、「蛙をつかまえる」、「草笛・笹舟をつくる」や「草や花をつむ」等、自然と触れ合う遊び内容は「殆どない・一度もない」という割合は高い。自然環境の変化や遊び時間・仲間の減少、電子メディアの普及等により、自然体験の機会は幼児・児童期の子ども達の感動・冒険・達成感等の体験の中からは存在の薄い遊び内容となっている結果が得られている。子どもの自然体験の機会を考えるには、自然環境そのものの保護をしていくこと、同時に子ども達の多様な体験、遊びをどのように豊かなものにしていくか⁴⁾⁵⁾⁶⁾。子ども時代の体験は子ども時代にしか得られない発見や感動があることを重視したいと考える。

5) 子どもの外遊びの時間は十分だと思いますか

子どもの外遊びの時間に対する親の満足度について、「十分である」と思っている母親は意外と少なく(15.3%)、「もっと外で遊ぶ方がよい」と思っている母親が多い(56.1%)ことがわかった(表10(a))。

6) 現在の「遊び場に満足」していますか

遊び場に対する母親の満足度について、「十分満足している」と答えた母親は21.1%、5人に1人にすぎない。「少し不満」あるいは「とても不満がある」と答えた母親は8割と非常に多い結果がみられた(表10(b))。

7) どんな場所で遊んでほしいですか

遊び環境の縮小や遊びの質的变化の中、子どもの遊び場所に対する親の希望は、「広く安全な所」という考えが圧倒的であり、続いて「自然の残っているところ」、「公園」という結果であった。

表9 遊びの内容(よくする・時々する遊びを含む) (複数回答) (%)

	全 体	男 子	女 子
1	おもちゃ遊び (96.2)	テレビを見る (96.6)	お絵かき (97.9)
2	テレビを見る (95.4)	おもちゃ遊び (95.1)	絵本をみる (97.1)
3	絵本をみる (94.1)	絵本をみる (91.0)	おもちゃ遊び (97.1)
4	公園(ブランコ, すべり台) (90.9)	公園(ブランコ, すべり台) (86.8)	公園(ブランコ, すべり台) (95.0)
5	お絵かき (79.2)	乗り物 (83.1)	テレビを見る (94.3)
6	かけっこ (79.1)	かけっこ (80.4)	ままごと (90.0)
7	乗り物 (79.1)	砂遊び (77.8)	かけっこ (78.0)
8	砂遊び (77.6)	ボール遊び (74.3)	砂遊び (77.4)
9	おもちゃ作り (70.5)	おもちゃ作り (71.7)	乗り物 (75.0)
10	ボール遊び (67.2)	おにごっこ (66.7)	おもちゃ作り (69.3)
11	おにごっこ (65.6)	テレビゲーム (60.7)	おにごっこ (64.5)
12	ままごと (62.6)	お絵かき (60.7)	ボール遊び (59.6)
13	虫とり (47.7)	虫とり (56.9)	室内ゲーム (52.2)
14	室内ゲーム (46.3)	室内ゲーム (40.3)	虫とり (37.9)
15	テレビゲーム (44.3)	ままごと (35.2)	テレビゲーム (27.8)
16	木登り (20.1)	木登り (12.0)	木登り (19.1)
17	川遊び (14.0)	川遊び (16.1)	川遊び (11.7)

表10 外遊びの時間に対する親の満足度(a) 遊び場に対する親の満足度(b) (%)

外遊びについて		遊び場について	
十分である	44 (15.3)	十分満足している	61 (21.1)
大体よい	82 (28.6)	少し不満がある	161 (56.1)
もっと遊ぶ方がよい	161 (56.1)	とても不満がある	65 (22.8)

D. 親子の触れ合いと満足度

1) 日常生活面の世話

子どもと日常生活面において、母親が子どもと一緒に「よくしている」内容は唯一「夕食を一緒に食べる」が9割を越えている。しかし「朝食」においては「一緒に食べる」は69.0%と低下する。また子どもへよく「話しかけ・話相手になる」ことも77.4%であった。他に6割を越える項目をあげれば「買い物と一緒に出かける」76.0%、「一緒に寝る」62.4%「お風呂と一緒に入る」61.7%であった。

他方父親が子どもと一緒に「よくしている」内容は「話しかけ・話相手になる」であるが41.1%と4割にすぎない。過半数を越える項目はなく、せめて3割を越える項目をあげれば「夕食を一緒に食べる」31.4%、「お風呂と一緒に入る」30.0%であった。「朝食を一緒に食べる」は26.8%と3割にも満たない状態である。特に父親においては「時々している」という割合の方が高くみられる。父親の日常生活面における子どもとの触れ合いは、父親の勤務時間と子どもの生活時間とのズレが考えられるが、接触は以外と少ない(表11)。

表11 親子で一緒にするものは(日常生活面) (%)

	母				もっと努力
	よくする	時々	殆ど・全然しない	無記入	
朝食を一緒に食べる	198 (69.0)	49 (17.1)	29 (10.1)	11 (3.8)	18 (6.3)
夕食を一緒に食べる	267 (93.0)	9 (3.1)	4 (1.4)	7 (2.4)	3 (1.0)
お風呂と一緒に入る	177 (61.7)	81 (28.2)	22 (7.6)	7 (2.4)	8 (2.8)
一緒に寝る	179 (62.4)	58 (20.2)	42 (14.6)	8 (2.8)	5 (1.7)
買い物と一緒にでかける	218 (76.0)	57 (19.9)	5 (1.7)	7 (2.4)	2 (0.7)
話しかけ・話相手になる	222 (77.4)	55 (19.2)	3 (1.0)	7 (2.4)	44 (15.3)
映画や音楽等をききにいく	19 (6.6)	82 (28.6)	177 (61.7)	9 (3.1)	35 (12.2)
	父				もっと努力
	よくする	時々	殆ど・全然しない	無記入	
朝食を一緒に食べる	77 (26.8)	67 (23.3)	119 (41.5)	24 (8.4)	30 (10.5)
夕食を一緒に食べる	90 (31.4)	108 (37.6)	71 (24.7)	18 (6.3)	51 (17.8)
お風呂と一緒に入る	86 (30.0)	131 (45.6)	49 (17.1)	21 (7.3)	34 (11.8)
一緒に寝る	64 (22.3)	94 (32.8)	108 (37.6)	21 (7.3)	12 (4.2)
買い物と一緒にでかける	45 (15.7)	131 (45.6)	88 (30.6)	23 (8.0)	11 (3.8)
話しかけ・話相手になる	118 (41.1)	125 (43.6)	26 (9.0)	18 (6.3)	43 (15.0)
映画や音楽等をききにいく	8 (2.8)	56 (19.5)	201 (70.0)	22 (7.7)	29 (10.1)

父親の人間性をどのように子どもの心の中に存在させるか重要な課題である。

「もっと努力したいことは」の問いに対し、母親は「話しかけ・話相手になる」をあげている。父親では「夕食を一緒に食べる」、次いで「話しかけ・話相手になる」そして「お風呂と一緒に入る」「朝食をたべる」をあげている。親の生活時間のゆとりと意識的な努力の両面が必要といえよう。それには個人の努力に加え、社会全体がゆとりのある社会を構築していくことが同時に望まれる。

2) 遊び面

遊び面において、子どもと一緒に「よくしている」遊びは、母親では「じゃれたり・体で触れ合う遊び」が39.4%、次いで「テレビを一緒に見る」33.1%、「室内での遊びを一緒にする」22.3%の順に上位3位の遊びであるが全体的にみて母親が子どもとよくする遊びの割合は多くはなく、「時々する」の割合を加えると74%を越える。それも室内で過ごす遊び内容が主である。他方父親では子どもと「よくしている」遊びは、同じく「じゃれたり・体で触れ合う遊び」が最も高く47.0%、次いで「テレビを見る」20.2%、「外遊びをする」19.9%が上位3位であり、「時々する」割合を加えると6割をこえる遊び内容である。(表12)

表12 親子で一緒にするものは(遊び面)

(%)

	母		親		もっと努力
	よくする	時々	殆ど・全然しない	無記入	
外遊びを一緒にする	52 (18.1)	142 (49.5)	81 (28.2)	12 (4.2)	77 (26.8)
公園で遊ぶ	54 (18.8)	152 (53.0)	72 (25.1)	9 (3.1)	52 (18.1)
室内遊びを一緒にする	64 (22.3)	149 (51.9)	52 (18.1)	22 (7.7)	26 (9.1)
テレビを一緒に見る	95 (33.1)	133 (46.3)	48 (16.7)	11 (3.8)	4 (1.4)
おもちゃ作りをする	12 (4.2)	112 (39.0)	149 (51.9)	14 (4.9)	43 (15.0)
テレビゲームを一緒に	6 (2.1)	33 (11.5)	234 (81.5)	14 (4.9)	3 (1.0)
じゃれたり・体で触れ合う遊び	113 (39.4)	123 (42.9)	41 (14.3)	10 (3.5)	29 (10.1)
	父		親		
	よくする	時々	殆ど・全然しない	無記入	もっと努力
外遊びを一緒にする	57 (19.9)	127 (44.2)	79 (27.5)	24 (8.4)	71 (24.7)
公園で遊ぶ	39 (13.6)	128 (44.6)	102 (35.5)	18 (6.3)	62 (21.6)
室内遊びを一緒にする	32 (11.1)	139 (48.4)	82 (28.6)	34 (11.8)	20 (7.0)
テレビを一緒に見る	58 (20.2)	150 (52.3)	55 (19.1)	24 (8.4)	5 (1.7)
おもちゃ作りをする	29 (10.1)	81 (28.2)	154 (53.7)	23 (8.0)	41 (14.3)
テレビゲームを一緒に	17 (5.9)	42 (14.6)	205 (71.4)	23 (8.0)	1 (0.3)
じゃれたり・体で触れ合う遊び	135 (47.0)	104 (36.2)	32 (11.1)	16 (5.6)	31 (10.8)

「もっと努力したいことは」の問いに対し、父親母親ともに「外遊びを一緒にする」ことをあげている。その内容は「ボール遊び」や「かけっこ」等があげられている。

3) 親が子どもと一緒に体を使って遊ぶ(運動)時間についての満足度

「今のままで十分」と、現状を肯定しているのはわずか18.8%と2割弱、「もっと時間を増やしたい」と考えている親が80.5%ととても高いことがわかる。親子の触れ合いの結果においても、「もっと努力したいことは」室内遊びよりも外遊びを一緒にしたいと答えている割合が父母共に高いことが示されていた。

E. 子どもの健康づくりのために最も大事なことは何ですか。

1) 幼児期の子どもの健康づくりのために最も大事と思っていることは、第1位に「生活

リズム・生活習慣」をあげており、47.9%と約半数を占める。続いて「食生活」32.5%、「遊び・運動」15.8%、そして「人間関係」3.1%の順である。

- 2) さらに健康づくりのために、「家庭生活全体についてもっと取り組みたいことがありますか」の問いに対して、最も多い意見は「家族一緒に外で遊びたい」「もっと体を動かす遊びをさせたい」「家族で同じスポーツを続けたい」「家族のふれあいを大事にしたい」など遊び・運動面での取り組みや家族の触れ合いがあげられていた。そして食生活面については「バランスのよい食事を作りたい」、「おやつを与え過ぎない」、「偏食をなくしたい」、生活習慣・生活リズム面については「早寝・早起きを定着させたい」、「規則正しい生活を実行させたい」「目的を持った毎日を過ごす」ことを、家族全体で取り組み充実させたい考えを示していた。
- 3) 他方「地域社会にたいしてもっと取り組んでほしいことや注文したいことは」の問いにたいして、「子どもたちが十分遊べる広場を確保してほしい、または増やしてほしい」「公園などの整備をきちんとしてほしい」等、かつての原っぱに代わる安全で広い遊び場の確保、また「幼児のマラソン大会、山登りなど、参加しやすく興味のある催し物を企画してほしい」、「自然の中でのイベントがあってほしい」など、遊び広場や地域活動の企画・充実を求める声があげられた。またこの他にも「道路と歩道橋等の段差や故障に、子どもに対する配慮みせてほしい」という意見、さらに「子どもの手本となることを地域の人々に自覚してほしい」など、周りの大人のモラルにたいする意見もあげられている。

おわりに

少子化のなか遊び環境は「外遊び」や「友達遊び」の減少、電子メディアの普及等に伴い、子どもの体験も質的量的に変化している。子どもの心身の発達や健康にとって、現状の幼児の生活リズムや遊びに満足する母親は意外と少ない。少子の子育てに時間やエネルギーをゆとりをもって注ぐことができるという思いの一面、子どもの生活時間・生活内容においてもっと早寝や早起きを望み、もっと親子で外遊びを増やしたいと考えている、また親自身の努力が日常生活面において「食事をいつも一緒にすること」や「話しかけ・話相手になる」など、育児の基本的なことの見つめ直しが浮き彫りになっている。現状の子どもの生活や遊びの実際と希望のあいだのズレは、親の認識と行動をどう統合させていくかということでもある。また母親-父親-子どもの関係のバランスを考える時、殊に父親の子どもとの触れ合いや育児参加には、個人の意識的な努力のみでなく、社会全体がゆとりある時間を構築していくことの必要性がある。そして日々の育児行動は、親の人生観や人間存在のあり方に対する考え方等、大事な価値観を子どもに伝える、いわゆる次世代の子どもへ文化を伝達していることの自覚をもつこと、それは親のみでなく保育や教育に携わる人々や自然環境の保護や子ども環境のあり方を考える地域行政上においても同じ視点を持つことが望まれる。子ども時代の現在を豊かに心身の発達充実を図ることが将来の各ライフステージにおける遊び心や自己実現、情緒の安定を一層充実させることにつながることの意義を人間発達の視点から大事に受けとめたいと考える。

文 献

- 1) 厚生大臣の懇談会：これからの家庭と子育てに関する懇談会報告書 1990
- 2) 後藤ヨシ子：親の養育意識に関する研究(1) 長崎大学教育学部教科教育学研究報告(6), 126-134, 1983
- 3) 後藤ヨシ子：現代っ子の遊び体験 未発表
- 4) 須藤 敏明：現代っ子の遊びと生活 青木書店 1992
- 5) 正木 健雄：遊びの不足が生む体のおかしさ 児童心理 49(13), 56-61, 1995
- 6) 高階 玲治：変化の激しいこれからの社会に「生きる力」とは何か「総合的な学習の実践」教育開発研究所 10-13, 1997